

平成22年度第2回 徳島県スポーツ振興審議会 議事録

I 日時

平成23年2月7日(月) 午後1時から午後3時30分まで

II 場所

旧阿波銀行かちどき橋支店 2階会議室

III 出席者

【委員】15名中14名出席

宇山孝人委員・大西真知子委員・佐古哲子委員・佐藤充宏委員
関本真美委員・竹林義浩委員・田中泰斗委員・田中俊夫委員
田中利子委員・豊永陽子委員・長瀬照明委員・弘山晴美委員
藤本美加委員・松岡優委員

【事務局】文化スポーツ立県局長・県民スポーツ課長ほか
教育委員会体育健康課班長ほか

IV 次第

1 開会

2 あいさつ

3 委員紹介

4 議題

(1) 次期徳島県スポーツ振興基本計画について

～4部会合同会議において意見交換～

(2) 課題と問題点の整理について

～各専門部会において協議～

(3) その他

5 閉会

《配付資料》

- ・スポーツ立国戦略(文部科学省)概要等(前回資料抜粋)
- ・とくしまスポーツ憲章
- ・徳島県スポーツ振興基本計画

V 議事録

事務局 (出席者人数の確認)

局長 (あいさつ)

事務局 (委員の紹介)

事務局 (会長が議長となる旨の説明)

議題（１）次期徳島県スポーツ振興基本計画について
～４部会合同会議において意見交換～

会 長 本会の議長を務めさせていただきます宇山です。ご協力のほどよろしくお願いたします。本日の会議は、昨年１０月２８日に開催されました、前回の審議会において、次期・徳島県スポーツ振興計画の検討にあたり、専門部会に分かれての検討に入る前に、４つの部会で共通の認識、課題を持つため、全体での意見交換が必要であるとの意見がありましたので、本日の会議を開催しております。

本日は、まず、事務局から「現計画の状況について」、次に「次期計画の『キーワード』『課題』等について」説明いただき、全体での意見交換を行いたいと考えています。つづいて、各専門部会に分かれ、全体会の意見等を受けて、各専門部会において、課題や問題点を整理すると共に、各部会の『柱』となる『重要項目』を決めていただきたいと思います。

それでは、議題に入っていきたいと思えます。まず、「現・徳島県スポーツ振興基本計画の状況について」事務局から説明をお願いします。

事務局 （４ページの「生涯スポーツの振興の現状について」、５ページの「競技スポーツの現状について」、６ページの「学校における体育・スポーツの充実の現状について」により、それぞれ説明）

会 長 ありがとうございます。次に、「次期・徳島県スポーツ振興基本計画」については、前回の審議会において、「とくしまスポーツ憲章」の「４つの基本目標」により整理することとしましたので、各専門部会の担当から説明してください。

事務局 （７ページ「元気なとくしまの推進について」、８ページ「輝くとくしまの推進について」、９ページ「豊かなとくしまの推進について」、１０ページ「ふれあいとくしまの推進について」により、それぞれ説明）

会 長 ただ今の説明につきまして、課題を含め、重要項目等について、何かご意見、ご質問等はございませんでしょうか。本日は、ざっくばらんに意見交換していただきたいと思いますので、委員の皆様の忌憚のないご意見をお聞かせ下さい。

委 員 非常に綺麗に出来ていて、１００点以上の出来映えであると思う。しかし、違和感を感じるころがある。まるで授業を聴いているような感じ。一番末端の地域住民がどれだけスポーツして、どれだけ成果が出ているかが出ていない。そのギャップをどのように埋めるのか。大きな歯車を決めなければならない審議会とか県の仕事としては１００点満点と思う。作文としても構成としても良くできている。だけど結果が出てないと言うギャップ、この中に面白味がない。住民が楽しくスポーツがやれると言う、そのような乗ってくるところがない。成功例は「とくしまマラソン」だと思う。六千、七千、一万と言った人が応募し、実際に参加し、マラソンをすとなったら、少なくとも

も一ヶ月も前から練習する。それは良い成功例で、それをいろんな分野に広げたらと思う。たった一回のマラソンでなくて、その準備のために何カ月も練習している。ものすごく良いことであると思う。ジュニアで5 Km、10 Kmマラソンがあれば、すぐに来るわけではなく、やっぱり何カ月も練習するとしたら、相当良い成功例だと思う。県外の人にも来てくれているし、観光にもなっているし、そのような企てを考えてくれたらと思う。違和感を感じ、ギャップがあると思うのは、数値目標があまりなくて、全部、推進します、確立します、強化します、活性化します、充実します、整理します。10年前、20年前もずっと同じ言葉である。大きなギアを持っている県の中ではこのようになると思うが、小さな末端のところではかみ合わないと言うことがある。よろしく具体化をお願いします。

会 長 文書としては良いけれども、とくしまマラソンなどを例にしてやってほしい。また、数値目標というか、成果は何を持って評価するか具体事例がほしいということでした。

委 員 これまでの話を聞いて、結果が出ないことについて話があったが、私自身、小学生、中学生の子どもがいます。それと今、私自身バレーボールをしてきましたので、小学生の子どもに、バレーボールを教えている。新聞にも載っていましたが、体育の授業の中で、万歩計を使う効果など、文部科学省にも伝えてもらいたいと思います。子どもの運動能力とか、スポーツを教えていて、指導するだけでは限度がある。バレーボールでも、教える中で、色々な刺激を外からも与えてあげたいと思う。バレーボールだけでなく、バスケットボールをやってみたり、夏であれば授業の中で水泳をやるなど、いろんな競技をやらせる中でスポーツに興味を持たせてあげたい。一番下の底辺から少しずつ興味を持たせてあげたいと思う。学校の中で遊具が危険だとすぐ撤去するだけでなく、新しいものを取り入れていただくなど、興味を持たせる部分が大切だと思う。私自身もスポーツをやってきて、やるだけでなく、見て、トップのレベルの競技を直に見て、もっと頑張りたいと、もっとやりたいと興味を持ったこともあります。例えば、何もスポーツをしない子ども達にも、徳島県ではプロスポーツに野球やサッカーもあるんですが、見に行くのに遠すぎると言うこともあります。逆に徳島県にプロのスポーツが来てくれると言う環境も少なすぎると思います。もちろん施設の関係、駐車場の関係もあると思いますが、見せてあげたいと思います。

会 長 出来るだけ興味を持たすためにどうしたらいいのか。するだけでなく、一流のアスリートの競技を見る機会を増やしていくなどの提案がありました。

委 員 生涯スポーツの実施率なんですけど、徳島は運動習慣が弱いと言われている。それに向けていろんな努力もされていると思いますが、9ページの「スポーツ実施率の向上」、先ほど松岡先生が言われたように、どれも大事なんですけど、一つ一つの重点項目の中で、これを「柱」にしてやりたいという、特徴的なものを出して行くべきでないかと思う。たとえばマイスポーツと言う、この人、この人にあったスポーツをやりたいと

いうのもすごく大事なんですが、逆に言うと、徳島県ではとにかくこれを皆さんにやっ
てもらおうということで、県の独自性みたいなものが、もう少し必要であると思う。こ
れは全てのものにはないんですが、たとえば徳島県の総合型スポーツクラブでは、こ
れを売りにすると言う、そんなものを創り、そこにアイデアとか人材を集中させて、成
果を出す。広く浅くと言う形でなく、具体的に、どんと数値が上がったという、そんな
ものを出していくというのは、そういう意味では県民の関心を引くのに繋がっていく
と思っている。

会 長 広く浅くでなく、どれかに特化して、徳島県の売りを作れと言う提案がありまし
た。

委 員 私も委員と同意見で、もっと的を絞った方がよいと思う。現在既にやっているも
のもあると思うんです。私は会社の社会貢献活動で義務教育現場に行っているんですが、
徳島ヴォルティスの出前サッカー教室を各学校に派遣しております。保育園、幼稚園、
小学校、中学校から申込があって、それをFAXで受け取りますと、4月から3月まで
の1年の中で、9月以降に学校に行くんですが、昨年の実績で6千名、120校、ヴォ
ルティスの現役の選手でなく、リタイアした育成部、普及部の人間が現場に行って、正
課の時間、一コマか二コマ、もしくは全校生徒と言うことになりますと、2日間、連チ
ャンでヴォルティスの選手が行って、出前サッカー教室をやる。あとインディゴソック
スと徳島ヴォルティスのプロチームの試合を現場でみる。これは県とタイアップしなが
ら、1回だけは、子ども達を現場に招待している。それも県の取組の中でやっている行
事なので、そういったことも、既にやっていることであるので、実績もあり、具体的に
今やっていますよと、県でアピールしてはどうかと思います。

会 長 昨年の徳島新聞の記事がとてもショッキングなものでした。体力低下とか色々あ
ります。教育委員会でも体力向上支援プランなどやっているが、気になることがある。
車社会で歩かなくなった。小学校では統廃合があって、スクールバスやタクシー、自家
用車で送り迎えしている。夜型の生活になって、睡眠不足になっている。朝食抜きで、
弁当がパンだけになったり、朝からパンだけの子もいる。大塚製薬陸上競技部の管理栄
養士の山上文子さんと一緒に講演にまわった時、ある高校の女子バレーボール部の選手
に昼食に何を食べたか質問すると、マカロニサラダ、非常に量の少ないマカロニサラ
ダを食べたと言っていた。これを聞いて、高校で部活動をする時に、昼食にそういう食
生活でいけるのか気になりました。アンケートに出てきているが、基本的な生活習慣から
直さないといけないと載っている。親、現場の教員、地域の方々が、現在の子どもの
生活実態をどれだけ掴んでいるのか。他人事でなく、こういう食生活、生活習慣をして
いけば、将来この子達がどうなっていくのかを考えた場合、打つ手というか、どうい
うことをしなければいけないか考えていくような施策が必要でないかと思う。ただ単に体
力低下と言うことだけでなく、総合的に見直ししていかなければならないと思う。

次に「徳島県の年齢別人口推移について」。これは推計人口ですが、2010年に全
体で78万8千人、10年後の2020年に73万人、5万8千人減っていく。この中

の14才以下がずっと減ってきていて、12.2%から10.3%になっている。逆に65才以上では26.6%から33.3%に増えている。25年後の2035年には、14才以下が5万7千人の9.1%に減り、65才以上が22万8千人の36.7%に増加している。県全体の人口では62万2千人と、すごい減り方である。

ここで、下の表の「中学3年の生徒数の推移」の地域別のデータを見ると、平成22年度には7,446人が中学を卒業し高校に入学している。単純に1クラス40人で計算すると、県下に186クラスあることになる。実際は30人学級とか20人学級もあり、もっと多いわけですが。10年後の平成31年度には162クラス、24クラス減っている。1クラス減ると教員が2名減る計算でいうと、教員が48名減ることになる。これは1学年のことである。10年後で見ると、31年度が1年生、30年度が2年生、29年度が3年生ということになる。これを合わせると55クラス減となる。これは単純に教員110人の減になる。中学校は、平成32年度から34年度で見ると98クラス分減っている。小学校はデータがないので、平成32年度から37年度の6年間で見ると215クラス分減ることになる。高等学校で考えると、これだけクラスが減ると教員も減る。従来教員が部活動を担当していたが、どんどん部活動が減ってくる。今スポーツ振興基本計画を立てているが、今まで学校に頼ってきたが、学校だけで間に合うだろうか。そういうことも視野に入れて考えていかなければいけないと考えている。

他に、ご意見ございますでしょうか。色々なご意見が出てまいりましたが、今後はこれらの意見を踏まえ、各専門部会でそれぞれ協議、検討を行っていただきたいと思いません。それでは、以上をもちまして、平成22年度第2回「徳島県スポーツ振興審議会」の議題(1)を終了させていただきます。この後は、各専門部会で協議していくということで、各専門部会長に進行の方をおまかせします。

事務局 議題(1) ~ 4部会合同会議終了 ~

議題（２）課題と問題点の整理について ～各専門部会において協議～

「輝くとくしま」部会、各委員から

- ・ 一貫指導体制の確立については、具体的な投てき競技の成功事例などを参考にする。
 - ・ 徳島育ち競技力向上プロジェクトでは、小学校、中学校、高校の指導者が集まって、協議をしていくことで、一貫指導体制の確立を目指している。
 - ・ 現在の指導においては、短期間で評価する成果主義的なところがある。幼、小、中、高と長い目で段階的に連携して育てていく、つまり一貫指導体制を築くことが大切である。
 - ・ 将来の生徒数や教員数が減少する状況の中で、今後の指導体制を考えていく必要がある。
 - ・ 指導員の確保については、退職者などセカンドキャリアの活用を考えていくべきである。
 - ・ 体力向上の前に、栄養についての基礎、基本的知識の教育が大切である。
 - ・ また、現在の生徒、選手の食生活を始め生活実態を踏まえた上での指導が必要である。
 - ・ 栄養指導は、指導者も知らないことが多いので、選手だけでなく、親や指導者も含めた指導が必要である。
 - ・ 栄養指導は、冊子を作ったり、新聞掲載してもらうことで、より啓発につながる。
 - ・ 目標の設定は、具体的な、目に見えるものがよい。
 - ・ また、できるだけ数値化できるものは、数値化して目標に掲げる。
- 等の意見が出た。

「元気なとくしま」部会、各委員から

- ・ 具体的にテーマを絞り込んで問題解決に向けて取り組む必要がある。
 - ・ 体力問題に関心のない保護者や教員に対してをどう啓発し、改善するかが課題である。
 - ・ 意識が低い保護者に対して体力について学ぶ機会をつくる必要がある。
 - ・ 学校や家庭任せにするのではなく、学校や保護者または地域が連携し、改善に向け取り組む必要がある。
 - ・ 歩数計の取り組みは、大きな成果を上げている。学校の授業と連携されるともっと効果が出るのではないか。
 - ・ 運動だけでなく、食生活の大切さを保護者や教員が理解する必要がある。
 - ・ 体力問題は部活や運動クラブに入る子どもが少ないことにも原因があると思う。
 - ・ 外遊びをしない子どもたちが増えてきているため、遊びの中で学ぶ基本的な動動作等を身に付けていない。
 - ・ 小学校で実施している体力テストは、子どもたちが十分理解もせずに行われていることがある。
 - ・ 体育専門以外の教師の指導力が低い。専門以外の教師に対して指導力を高める講習会等が必要である。
 - ・ それぞれの学校の特色に応じた改善的な計画を学校・保護者・地域で考える必要がある。
 - ・ 指導者（コーディネーター）を配置し、学校に派遣する計画がある。
 - ・ 学校の空き教室に運動機器を設置し有効活用はできないか。
- 等の意見が出た。

「豊かなとくしま」部会・「ふれあいとくしま」部会、各委員から

・次期スポーツ振興基本計画は、国の動向を確認しながら作業を進める。策定の時期までに国の動向がない場合、徳島県独自の計画を策定するかは、協議が必要である。

・重点項目を決定した後は、他部局との調整を図りながら具体的な事業計画、アクションプランを決め行動していく必要がある。

・具体的な事業の実施には、優先順位及び数値目標を決めて取り組む必要がある。

・「豊かなとくしま」の推進においては、健康もキーワードとする。

スポーツ実施率の向上においても、運動をしていない人や始めるきっかけがない人をいかに実践してもらうことが重要なので、運動・健康づくりという視点は欠かせない。

・「スポーツ指導者等の養成・育成」において、競技団体と「連携」することは重要である。

・次期振興基本計画における「豊かなとくしま」では、「県民と共に創るスポーツの振興」を新たな視点としている。また「ふれあいとくしま」では、にぎわいづくりや楽しみを出していくことが重要であり、その考え方自体を取り入れることが、新しい視点としている。

・徳島独特のスポーツ振興策として、マラソンを核として取り組むことは、スポーツ人口の拡大、スポーツボランティアの育成や活用、地域の活性化などを図ることができるので、スポーツ振興の核をつくり、アイデアをひろげていく視点は大切である。

・指導者やスポーツボランティアの確保のために、高齢者を対象に、スポーツ活動の実践と学びの場づくりを推進し、その後指導者やボランティアとして、地域の中で継続的に運動プログラムを担っていく仕組みづくりが大切である。

・徳島ヴォルティスや徳島インディゴソックスなどのプロスポーツと「連携」し、プロスポーツの社会貢献の推進と地域づくりをねらいとした取り組みが必要である。

・総合型地域スポーツクラブの機能強化を図るためには、地域貢献や地域とのつながりは大切である。そのためには、総合型地域スポーツクラブ連絡協議会や県広域スポーツセンターの機能の充実は大切である。

等の意見が出た。

事務局 議題（２） ～ 各専門部会終了 ～